若者×情熱

ミハラのチカラ

STORY 33

プログラミングの魅力を子どもたちに伝えたい

一般社団法人ロフレック代表理事　岡田吉弘（おかだよしひろ）さん

「やったぁ。動いた」。ロボットが動き出すと、教室のあちこちから歓声が上がりました。集まったのはコンピューターに特殊な言語で指示を出し、思い通りに動かす「プログラミング」を学ぶ小学生。指導するのはプログラミングを通じてまちを活性化させようと取り組んでいる岡田吉弘さんです。

三原市出身の岡田さんは大学でプログラミングを学び、エンジニアとして総合材料メーカーに就職。主に新製品の開発や、海外の事業所での技術指導などに携わっていました。

▶子どもたちにプログラミングを教える岡田さん

仕事で活気にあふれた異国のまちを訪れるたび、「自分の故郷である三原を再び元気なまちにしたいという思いがどんどん強くなった」と言います。

そこで、地域活性化について学ぶため、思い切って会社を辞め松下政経塾に身を投じました。研究を進めるうち地域におけるＩＴ教育の重要性に気付いた岡田さんは、大学院でさらに学びを深めた後、昨年４月に神奈川県からＵターンしてプログラミング教室などを運営する会社を立ち上げました。

現在は市や関係機関と連携し、２０２０年から全国の小学校でプログラミング教育が必修化されるのに備え、先行してカリキュラムづくりに取り組んでいます。昨年は小・中学生を対象としたプログラミング講座を複数回実施。子どもたちがプログラムした接客ロボットは市内の商店などに置かれ、お辞儀したりあいさつしたりして来店客を迎えました。

「単に知識や技術を身に付けるだけでなく、学んだことが人の役に立ち、人を笑顔にできる学びの場を提供したい」と岡田さん。一部の小学校で授業を行う予定もあり、活動の範囲を広げています。「プログラミングを身に付けた子どもたちが、いつか三原の活性化に力を貸してくれたら」。そんな夢を持ってプログラミングの魅力を人々に伝えています。

※このコーナーでは、スポーツや文化・芸術活動などに情熱を注ぐ若者や子どもたちを紹介します。

三原百景（みはらひゃっけい）

炎

撮影エピソード　撮影者　西原夢来（にしはらゆら）さん

除夜の鐘、鐘楼（しょうろう）近くのたき火から舞い上がる炎が、まるで煩悩を払っているように見えました。私も高校受験、頑張らなければ。

●撮影年月＝平成30年12月
●撮影場所＝泰蔵寺（小泉町）

写真・絵を募集しています

テーマ
～あなたが残したい三原の風景～

応募資格　市内在住・在勤・在学の人
選　　考　秘書広報課で選考
※応募作品の著作権は市に帰属し、市の公式フェイスブックで紹介させていただく場合があります。
※応募作品は返却しません。
申し込み　郵送またはＥメールで写真（Ｌ判・データ）か絵（大きさは画用紙A3サイズまで）と①名前②住所・電話番号③撮影・制作日④撮影・題材場所⑤作品名⑥作品エピソード（70字以内）を秘書広報課（〒723-8601港町三丁目５番１号☎0848・67・6007E-mail hishokoho@city.mihara.hiroshima.jp）へ